

## 岐阜女子大学の e-learning と教育リソース (デジタルアーカイブ) を連携させた遠隔教育の展開

～多様な学習者に対応できる大学教育の機会の提供を目指して～

松川 禮子 (岐阜女子大学 学長)

岐阜女子大学では2000年から遠隔教育振興会(木田宏会長 元文部事務次官、国立教育研究所長)の支援を得て遠隔教育を進めてきた。その経緯をもとに多様な受講者を想定し、広く経済的・社会的・学習弱者にも大学教育の機会を提供する。また「人生百年」の時代に、生涯学習の必要性が増す中、キャリアチェンジの各局面でリカレント教育等のための支援を可能にする。

### 1. 遠隔教育の構成

岐阜女子大学の遠隔教育の学びは、次のような方法で構成する。

#### ① e-learning と教育リソース (デジタルアーカイブ) での学び

多様な学修情報を保管している教育リソースを必要に応じ使いながら、e-learning で学ぶ。

#### ② 対面授業とテレビ会議システム等での受講

対面授業をテレビ会議システム等を用いて受講、また必要に応じ対面授業にも参加できる。

#### ③ 主体的な学び

教育リソースや国内外の関係デジタルアーカイブを使い、自ら課題を見出し、SNS等で他の学習者と協働、話し合いで課題解決を図る。

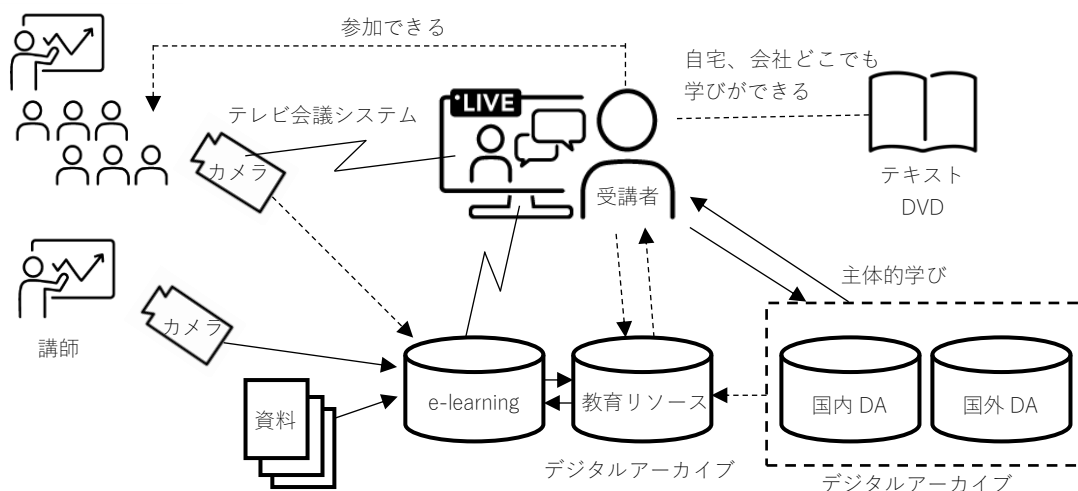


図 岐阜女子大学のテキスト、e-learning、教育リソース等による遠隔教育

- ・e-learning と教育リソースを連携させた学びを提供する。
- ・教育リソース（デジタルアーカイブ）は、学修支援・研究資料等を保管し、図書館・資料室等の利用困難な遠隔教育の支援をする。
- ・授業（テレビ会議システム）、e-learning、教育リソース（デジタルアーカイブ）等を有効に活用し学びを成立させるためテキストを提供する。

## 2. 遠隔教育の課題であった学習情報環境を教育リソース（デジタルアーカイブ）で充実

遠隔・通信教育では受講者が容易に図書館、資料室にアクセスできないことが課題であった。岐阜女子大学が2000年から開発研究を進めているデジタルアーカイブを用いて教育リソースを整備し、e-learning と連携させ学修支援・研究資料を提供し、学習活動に適用できるシステムを構築する。また、国内外のデジタルアーカイブ等を活用し、学修・研究ができるように支援する。このような学習情報環境の整備により学習弱者を一人でも少なくする努力をする。



## 3. 多様な受講者を受け入れる遠隔教育

### ①高校卒業生

経済的・社会的な格差等の広がりにより、能力があっても大学進学が困難な学生に対し、働きながら全国どこでも大学教育が受けられる遠隔教育システムを構成し、学びを支援する。また、様々な理由から大学への通学が困難な多様な学習弱者に対し、大学教育が受講できる遠隔教育システムを構築し、教育リソースを用いて豊かな学びを支援する。

### ②短大・大学卒業生

短期大学卒業生、大学卒業生等にさらなる資格の取得や自己発展のための学びを支援する。短期大学卒業生は編入学として受け入れ、高い専門性や資格の取得を支援する。

大学卒業生等は、編入、科目等履修生（選科生）として受け入れ、新しい専門性の習得を支援する。

### ③キャリアチェンジを希望する社会人

「人生百年」の時代を迎えて、変化の速い社会に対応し、生涯学習の必要性はいよいよ現実のものになってきた。人生のそれぞれの局面での働き方も変わり、終身雇用が困難となっている。キャリアチェンジで必要とされる高等教育の学び直し、資格・免許の取得を支援する。

#### ・リカレント教育

高等教育の学び直しとしてのリカレント教育のために、人々の関心の高い分野でコースを設定し、編入、科目等履修生（選科生）または必要に応じ講座を開設し、社会の要望に対応する。

#### ・資格取得・免許取得

本学で学修できる特定の資格・免許取得希望者は、編入、科目等履修生（選科生）として受け入れる。教員免許更新講習講座、教員免許上進講座等も、遠隔教育を中心に開講する。